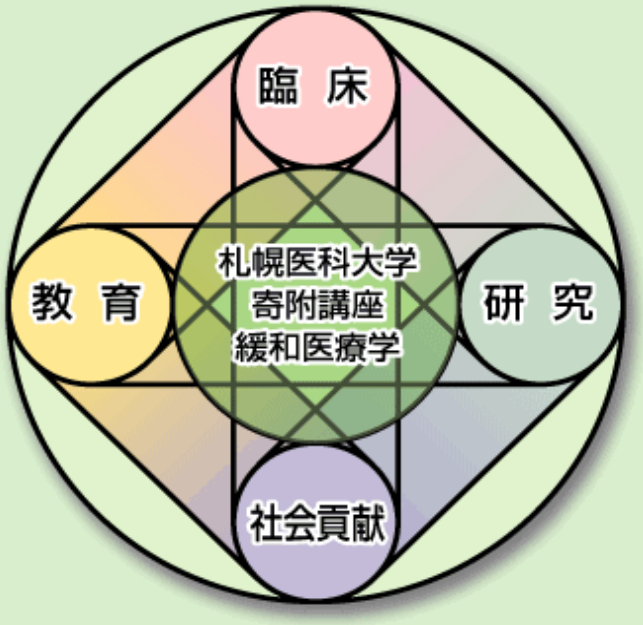
寄付講座　緩和医療学

教授（兼任）並木昭義、講師　川股知之、助教　奥田博之、助教　長谷川有子、助教　岩本喜久子

緩和医療の現場では治療やケアをエビデンスに基づいた科学的な学問、すなわち緩和医療学として捉えて実施しなければ医療レベルの向上、進展が望めない。緩和医療学に基づいた普及と進展を図るには、緩和医療にかかわる医療者の知識と技術の取得、そして医療系学生への教育、さらには一般市民への教育や啓発活動・地域社会、医療との連携というさまざまな体制の確立が重要である。以上の方針と内容の達成を目指し、活動する。

札幌医科大学 寄附講座 緩和医療学の 果たす役割



臨　床

・現在ある院内の緩和ケアチームと協力し院内の緩和医療の質、スタッフのスキルアップを目指し、総合的なサービスの質の向上に貢献する

・大学の緩和ケアチームを始めとして、院内全体のケアの向上のため院内勉強会などを定期的に開催

研　究

・緩和医療教育における現場の専門職が抱える問題点を理解し、どのような効果的な教育が必要か理解
・疼痛をはじめ、症状コントロールという臨床スキルに関して、教育的研究をリードする

・他病院、他大学と連携し、緩和ケア教育、緩和医療に関する研究を積極的に展開

教　育

・異職種対象に幅広く緩和医療に関する知識・臨床技術向上のための教育を提供
・大学院教育において実践的かつ質の高い教育を実践する
・ニーズに合わせた教育機会、情報を提供
・継続的なメンターシップ、指導環境の確保

・３日間入門コースをはじめとする、異職種対象にした緩和医療に関するブラッシュアップ講座を定期的に開講
・地域資源を活用する

社会貢献

・従来の医療の枠を超え、家族地域市民が病に関する情報を求められる場所、また、個人が抱える心の痛みを発散できる環境を提供
・グリーフという精神的苦痛が身体に及ぼす影響を理解できる専門職教育、および、医療、地域環境作りに貢献する

・ウェブコンファレンスを通して、継続的な教育の機会を提供
・家族ケアを目的とした事務所の開放